



平成29年 2月

本の中に出てくる食べ物が、
2/20 (月) の給食に登場します。

2/20の^{こんだて}献立

ピラフ、
クリームシチュー、
鉄骨サラダ、牛乳

紹介した本は
学校図書館で展示中。
借りられます！



クリームシチュー



『博士の愛した数式』 (小川洋子/著)

新潮社

交通事故で記憶が80分しかもたなくなってしまった「博士」の家に、家政婦として通うことになった「私」。「博士」は、数学をとっても愛していて、「私」との会話は「君の靴のサイズはいくつかね？」「君の電話番号は何番かね」という問いに始まり、いつも数字や数式についての話ばかりでした。また「博士」は考え事に没頭すると、こちらが話しかければ、考え事の邪魔をするな、と不機嫌になり、食事のときは、ただ食べ物を口に運ぶ作業をしているだけの状態になりました。

ある日「私」はスプーン1本で食事ができるようクリームシチューを用意します。その日も「博士」は考え事に没頭し、食べこぼしをし、そばにいる「私」と会話をしようとしません。「博士」の袖口に付けたメモは、スプーンを使うたびにシチューにつかりそうです。ふと、昨日は付いていなかったそのメモに「私」はとします。

《新しい家政婦さん》と書かれ、似顔絵も添えてあるメモ。それは、忘れてはいけないことを書き留め、服のあちこちにクリップで留めたメモの中の真新しい1枚。「博士」が、自分の記憶から「私」が消えないうちに、考える時間を割いて書いてくれたことがわかるメモでした。

もしこのとき「私」がクリームシチューを作らなかったら、もう少しギクシャクとした日々が続いていたかもしれません。「私」がクリームシチューを

作ったのは、考え事をしているときに骨をとったり殻をむいたりする食事が不向きであると考えたから。クリームシチューは、「私」が少しずつ「博士」を理解して行こうという第一歩の食事だったのかもしれません。



小松菜



参照：『からだにやさしい旬の食材 野菜の本』講談社

20日の献立の食材にも使われている、小松菜。おひたしやお雑煮に使う馴染みのある野菜のひとつです。ほぼ1年中出回っていますが、実はこの小松菜は冬が旬。冬の小松菜はひと味違います！霜が降りる冬は、葉が肉厚で柔らかくなり甘みが出るそうです。栄養価も高く、ビタミンCや鉄分、カルシウムなども豊富です。寒いので、汁物や炒め物の具にして美味しく温まってはいかがでしょうか？

最後にクイズです。小松菜を「小松菜」と名付けたのは誰でしょう？(ヒント…鷹將軍と呼ばれたあの人です)

(いそぎやうり 隠岐の島県立甲斐) 岩山川 恵部 恵子